

調査報告概要表

作成日 2007年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4674900164
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	グループホームスマイル園
所在地 (電話番号)	鹿児島県出水郡長島町鷹巣3681-2 (電話) 0996-86-1152

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年3月26日

【情報提供票より】(19年3月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	4.4

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての,	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 650 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 66 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高野医院 児島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は昔からの民家が建つ集落であり、母体法人が運営する医療機関の裏手に位置している。医療機関とは渡り廊下を使って行き来できるようになっており、医療的ニーズが発生した場合の対応、火災などの緊急時に互いに協力できるよう連携体制がとれている。職員は季節に応じた様々な行事等に楽しく取り組んでおり、互いに喜怒哀楽を共にしながら生活している様子がうかがわれる。ほとんどの居室には専用のお手洗い・洗面所が用意されており、入居者のプライバシーに配慮した介助が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への広報・啓発について、園便りを作成して配布する取り組みを行っている。緊急時に迅速かつ的確に対応できるようマニュアルを作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政担当者や地域の代表者、利用者家族等に対して状況報告をするともに、今後の取り組みや、グループホームへの意見等を話しあう場に行っている。さらに、運営推進会議を意義あるものとして継続できるよう会議のテーマ等について常々話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や希望等をホームに伝えやすいように、常に職員のほうから声かけを行っている。家族会を通じて苦情や相談ごとを伝える仕組みも整備しているものの、現在のところ不満や苦情等はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	集落行事への参加や母体法人で催されるお祭りへのお誘いなどを通して、地域の人々と交流する機会を設けている。日常的にも散歩をしながら声をかけるなどの取り組みが行われており、近隣住民との関係作りもできている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に、地域の中でその人らしく暮らし続けていくことを支援していく視点が盛り込まれている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、目につきやすい場所に理念を掲示し、毎朝唱和して理念の実現に取り組んでいる。今後は理念の一つ一つの言葉の意味を考えるような機会を設け、さらなる共有化を検討する予定である。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	集落行事への参加や母体法人で催されるお祭りへのお誘いなどを通して、地域の人々と交流する機会を設けている。日常的にも散歩をしながら声をかけるなどの取り組みが行われており、近隣住民との関係作りもできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。外部評価結果については、具体的な改善方法を検討し、職員全員で取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者や地域の代表者、利用者家族等に対して状況報告をするとともに、今後の取り組みや、グループホームへの意見等を話しあう場になっている。さらに、運営推進会議を意義あるものとして継続できるよう会議のテーマ等について常々話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは顔なじみの関係であり、気軽に相談や問い合わせを行っている。地域の介護サービス提供事業所と協働して行っている地域ケア会議にも、市町村担当者へ出席を呼びかけている。		運営推進会議以外でホームを訪問してもらったり、生活の様子を知ってもらう機会がない。普段から市町村担当者と職員が行き来できる関係を作り、共に質の向上に取り組む体制について検討してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	園便りを発行し、ホーム全体の様子とそれぞれの利用者の様子について定期的に報告している。職員の異動等についても、園便りを利用して家族に知ってもらう機会を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や希望等をホームに伝えやすいように、常に職員のほうから声かけを行っている。家族会を通じて苦情や相談ごとを伝える仕組みも整備しているものの、現在のところ不満や苦情等はない。		今後は職員以外の第三者(外部者)に、直接意見や苦情を伝える仕組みについて検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの管理者や職員による支援の重要性を十分認識しており、やむを得ない場合を除いて、極力職員の異動がないように配慮している。異動があった場合でも利用者へのダメージを最小限に抑えられるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ外部で行われている研修に参加する機会を設け、研修内容を報告して職員で共有しているものの、それぞれの職員の段階に応じて計画をたて、トレーニングをすすめているとは言いがたい。	○	職員育成についての具体的方針を定め、それぞれの経験や立場に応じて段階的に力をつけていけるような研修体制の整備を期待したい。法人の内部研修や関連のグループホームと共同で行う内部研修の実施について検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人が運営する関連のグループホームと協働して季節の行事に取り組んだり、相互に訪問しあうなど、職員同士が交流する機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を決める前に利用者と家族に部屋のつくりや暮らしぶり、食事の様子などについて見学してもらう機会を設けている。その機会を利用して、職員と利用者・家族が馴染みの関係になれるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方や昔からの風習などについて、職員が利用者から教えてもらう場面が多々ある。テレビでニュースをみたり、一緒に行事に参加することで、職員と利用者が悲しみや喜びを共感することも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めている。本人からの意向の表出が困難な場合でも、家族の意見などを参考にしながら本人本位の検討ができるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作成する際、本人や家族の意見をもとに職員と話し合いながら計画を作成するよう努めているものの、現在の課題やケアのあり方について、それぞれ活発に意見やアイデアを出す機会や仕組みが十分に設けられていないと嘆息している。	○	計画を作成するにあたり、本人や家族はもとより、必要な関係者や日々一番多くの時間を過ごしている職員の気づきや意見、アイデアを活発に出しあい、それを反映させる仕組みについて検討してほしい。さらに、作成した計画については、職員がその内容と意義について理解しながらケアを行えるよう、内容等の周知を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもとより、状況の変化に応じた計画の見直しが行われている。	○	特に大きな変化がないように見えても、定期的にモニタリングを行い、計画見直しの必要性の有無について検討する仕組み作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物の支援・買物の代行・理美容院やかかりつけ医への送迎など、本人や家族の状況によって発生するニーズに柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しながら、隣接する医療機関や以前からのかかりつけの医師、他町の総合病院等と連携をとり、必要な時に適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化や終末期に対する取組状況やマニュアルの内容について説明した上で、その時点での希望を確認し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に「年長者であることへの尊敬の気持ち」を忘れないよう日常的に話し、誇りを大切にケアを目指している。入浴は個浴で対応し、排泄介助もほとんどそれぞれの居室内にあるトイレで行われており、プライバシーに配慮したケアにも気をつけている。利用者家族に配布される写真の取り扱い、ファイルの管理等も適切		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね規則正しい生活に心がけた声かけは行われているが、業務の流れや職員の都合を優先させることなく、それぞれのペース・その日の体調・希望にあわせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員はそれぞれができることを分担して行い、一緒に食事作りや後片付けに取り組んでいる。時折季節の食材について話題にして、皆で調理方法を相談し、季節感のある食事を楽んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、季節に応じてシャワー浴を行うなど、個別の希望に応じた支援に取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で洗濯・食事の準備・おやつの準備・包丁研ぎなどそれぞれ役割を持って生活している。また歌や三味線・踊りなどを楽しむ利用者もあり、張り合いや喜びのある時間を過ごすことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して行事計画をたて、外出の機会を設けている。行事以外でもお天気や体調にあわせてドライブにかけたり、近隣を散歩するなどの取組みも行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、鍵をかけない自由な暮らしの支援を目指している。外出したい様子が見られる利用者には、一緒に散歩をしてまわるなどの対応を心がけ、安易に鍵をかけることがないよう全員で取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を行っている。また、地域の自治組織である協力隊と連携をとり、緊急時、速やかに協力依頼できるような体制作りができていいる。地震・水害時などに必要な備蓄等は母体法人で管理し、定期的にチェックしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは母体法人の管理栄養士が作成しており、カロリー・栄養バランスとも栄養の専門的見地から、に検討した食事を用意している。食事及び水分摂取量は概ね把握し、記録を残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光の加減については、状況や季節に応じて適切に対応している。ホーム全体が明るく開放的で、生活感のある居心地のよい空間になっており、利用者はダイニングや窓際のソファで寛いで過ごしている。季節の装飾等も行われ、生活感・季節感のある空間作りができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家財道具を自由に持ち込んでもらい、それぞれの居室作りに取り組んでいる。家族からの協力を得ながら、大切にしていた写真等や昔から使っていたものを居室に置き、本人が安心して過ごせるような支援も行われている。		